

NO. 4	技術開発 提案名	二重配管構造の給湯新配管システム等の技術開発		
事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・HPリビングライフ株式会社 ・ミズタニバルブ工業株式会社 			
技術開発 経費の総額 (予定)	約 74.6 百万円	技術高度化 の期間	平成26～27年度	
<p>■ 住宅等における環境対策や健康向上に資する技術開発</p> <p>住宅等におけるストック活用、長寿命化対策に資する技術開発</p> <p>住宅等における防災性向上や安全対策に資する技術開発</p>				
背景・目的	<p>住宅全体の2次エネルギー消費量の1/3が、給湯である事に着目、即湯システムの実現を目指した技術開発を行うことによって、各戸の省エネ効果を十分に発揮する事が可能となり、延いては、日本全体の省エネ効果に貢献できると考えた。</p> <p>また、冬季の入浴時の高齢者シャワーのヒートショックと、不快感回避を改善することも念頭に置き、技術開発を行う事とした。</p>			
<p>■ 技術開発の概要</p>				
<p>一般的な給湯システム概要図(例)</p> <p>一般的な循環給湯システム概要図(例)</p> <p>二重配管構造型最新即湯システム概要</p>				
<p>◎ 技術開発の背景</p>				
<p>① 一般住宅の給湯配管は、上図の様な先止り配管のため即湯性なし・無駄なガス・上下水道量の問題点の改善解消が必要</p> <p>② 一般住宅での一部給湯循環ポンプユニット利用配管も、同様に水栓への接続配管は先止り配管であるため、即湯性・無駄なガス・上下水道量は若干解消されるが、循環ポンプユニットの稼働率等が高く省エネ効果は低く、水栓等接続配管までのリバーシタール配管システムの採用が必要</p>				
<p>◎ 技術開発の内容</p>				
<p>① 二重構造の給湯配管(内管が給湯:外管と内管との間隙が返湯)と二重構造の新規継手による水栓接続配管までのリバーシタール配管システム(即湯先分岐システム)の開発</p> <p>② 一般住宅、戸建・集合住宅に拘らず、現在多く採用されている「給湯ヘッダー方式」についても適応できる様、同様に二重管型構造の即湯性に優れた「即湯ヘッダーシステム」の開発</p>				
総評	<p>集合住宅用の給湯配管システム等の技術開発について、実用化が期待できる。ただし、配管の断熱技術としての効果検証が必要であり、調査実績の蓄積が必要である。</p>			